

図形譜を用いた音楽表現活動 —専門演習 I・II における学生の実践活動報告から vol. 2—

柚木たまみ*

滋賀短期大学 幼児教育保育学科

Activity of Music Expression as Utilizing Graphic Notation

Tamami YUNOKI

Department of Early Childhood Care and Education, Shiga Junior College

抄録：保育者養成校である勤務校において、2年次に設置されている専門演習 I・II は、教員の専門性を生かした少人数ゼミ形式の演習科目である。

筆者は、近藤真子¹⁾が考案した「クロックオーケストラ」²⁾のアイデアを基に考案された「回るシンフォニー」³⁾の活動を専門演習の授業に取り入れ、学生とともに附属幼稚園児に対して実践を試みた。

「回るシンフォニー」は従来の五線に音符が記譜されている楽譜とは異なり、読譜の知識を必要としない図形譜である。ここでは、「回るシンフォニー」の活動について、実践内容を報告するとともに、附属幼稚園教諭を対象として実施したアンケート結果と実践に参加した学生による園児の観察および学生自身の感想から、幼児教育・保育における音楽表現教材としての有用性と応用性を述べる。

キーワード：音楽表現，アンサンブル，保育者養成，幼児教育，図形譜

1. はじめに

本学幼児教育保育学科の2年次に設置されている専門演習 I・II という演習科目は、学科の専任教員がそれぞれの専門性を活かした内容を通して、少人数のゼミ形式で時代と社会のニーズに応え得る幼児教育・保育の理解を深め、社会的責任を自覚していくものである。筆者は音楽を専門とするところから、「子どもの音楽遊びの理解と実践」をテーマとして授業を構成・実施した。なお、この年度の筆者の専門演習クラスは10名であった。

授業全体は、主として、「絵描き歌の創作」「絵本の読み聞かせと楽器による音・音楽のコラボレーション」⁴⁾そして「回るシンフォニーによる活動実践」の3つの活動で構成される。次項でそれぞれの活動について概要を示す。

* E-mail: t-yunoki@sumire.ac.jp

2. 活動内容について

2.1 専門演習 I・II の概要

(1) [絵描き歌の創作]

まず最初の活動として、わらべうたの旋法(ペンタトニック)を用いてオリジナルの絵描き歌の創作活動を行なった。学生は2,3名のグループに分かれ、こちらから提示した絵描き歌のモチーフから各自任意の1点を選択し、オリジナルの絵描き歌を創作した。

絵描き歌はわらべ歌の伝承遊びのひとつである。口承のためその楽譜は存在しない。しかし、絵描き歌を歌いながら描かれた絵の完成形により、音楽も出来上がった、「見える」状態になっていると捉えた。「回るシンフォニー」の活動に入る前段階として、通常の五線譜から少し難易度を下げた方法で音楽作り=「作曲」の体験をしてもらおうと考えたものである。

まず学生にはいくつかの既存の絵描き歌の絵モデル⁵⁾を提示し、わらべ歌の旋法でオリジナルの絵描き歌の創作活動を実践した。絵描き歌は音楽活動(歌唱活動)と描画活動(身体運動を伴う)の組み合わせであることを伝え、①日本語のイントネーションに忠実に②2音または3音でわらべ歌の旋法で作る③二拍子の流れにのせることを示した。そして、二拍子を構成するリズムパターン(図1)を提示した。また、創作に使用する書式は、一線、二線、三線、(図2)そして通常の五線譜の4種類を用意した。どれを使用するかは学生の任意とした。

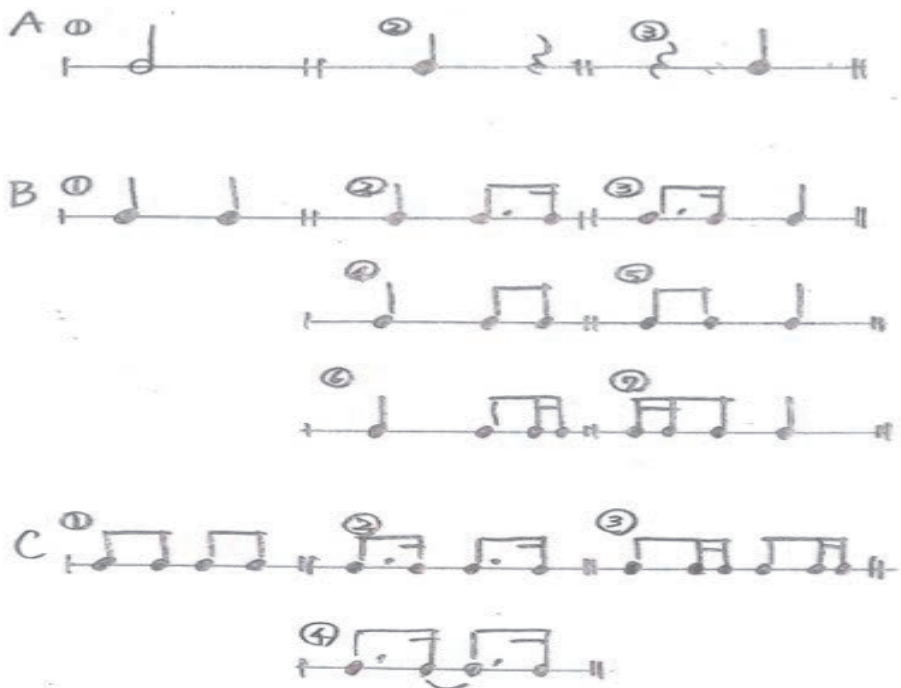


図1 リズムパターン

柚木 たまみ



図2 創作の書式 (一線, 二線, 三線)

学生が創作した絵描き歌は次の4作品である(図3)。

① ししし

② ほろしを

③ かみさのぼ

④ ヒメビリさん

① なかむしさんかみに

② いかぼろ

③ パーマをかいた

④ へんげん

(次ページにつづく)

図形譜を用いた音楽表現活動

<すいか>

① すいかなかに ② すいかなかに

③ すいかなかに ④ すいかなかに

<ネコ>

① みずたりに ② いしなかに

③ みずたりに ④ はねた

⑤ じんかたつ ⑥ くりとがりと

ネコさん

図3 学生創作の絵描き歌4作品 (ドングリ・ニンジン・スイカ・ネコ)



図4 サウンドブロック

学生は当初「作曲」というキーワードにやや抵抗があったようだが、五線譜でない書式に音の高低を示すことにはすぐ慣れたようであった。完成した作品はクラス内で描画と楽器による演奏による発表を行った。音楽的素養のある学生は大譜表で伴奏付きの楽譜を作成した。ピアノの演奏に自信のない学生は、サウンドブロック(図4)を用いて、譜面の音符に鳴らす音(楽器)と同じ色を塗って演奏ミスを防ぐ目印にする工夫があった。手拍子や木魚による拍子を打つ作品発表もあった。

(2) [絵本の読み聞かせと楽器による音・音楽のコラボレーション]

絵本「どうぞのいす」の読み聞かせに、楽器を用いて音・音楽を加える活動を行なった。題材となる絵本の選定や使用する楽器の選定と音・音楽挿入の箇所、演奏方法、またキャストイング、台本作りについては学生主体に進められていった。成果を附属幼稚園で実施発表した。内容については滋賀短期大学研究紀要第45号において報告している。

(3) [「回るシンフォニー」による活動実践]

図形譜「回るシンフォニー」を用いた音楽表現活動を実践した。附属幼稚園の協力を得て実践とアンケート調査を行なった。

学生は以上のような異なる3つの活動を行い、音・音楽を視覚的教材と組み合わせることによる「音楽の見える化」を段階的に体感した。

2.2 「回るシンフォニー」について

近藤真子が考案した音楽づくり活動「クロックオーケストラ」(図5)とは、時計の文字盤を楽譜に見立てた「図形譜」による音楽表現活動である。音楽的技術や読譜力の如何にかかわらず、想像力を働かせて表現ができるため、年齢や経験に関係なく、幼児から大人まで時計の動きを読むことができればだれでも気楽に音楽づくりができる。秒針の動きを見つめながら演奏をする。時計の秒針の動き、1セット60秒というのが活動の唯一のルールである。その中で参加者は、仲間との関わりが深められたり、演奏に工夫が加わっていく過程を楽しむことができる。

「回るシンフォニー」(図6)は、「クロックオーケストラ」のアイデアを基に、奈良教育大学・電通・NTNの産学連携で考案された音楽表現活動である。筆者はこの活動に、「音楽の見える化」としての高い有用性を見出し、教育実践に導入した。

幼稚園における「回るシンフォニー」活動実践のプレ実践として、学生はオープンキャンパスでプレゼンテーションの機会をいただいた。学生がオープンキャンパスの参加者(高校生やその保護者)に向けて「回るシンフォニー」についての説明とデモ演奏、交流を行った。学生のレポート内容を紹介する。

《オープンキャンパス前の「回るシンフォニー」についての印象》

- ・初めて見た時は「どうやって演奏するのだろうか」と疑問を持ったが練習をしなくてもすぐにみんなで楽器を

使って**表現することの楽しさ**を味わうことができた。

- ・みんなで部分ごとに分けてやることで**団結**してできた。
- ・みんなで楽器の分担をどうするか**相談**して行うのは楽しかった。
- ・最初は回る針に合わせて楽器を鳴らすだけの単純なものだと思ったが、実際やってみると自分の**好きなように演奏**できるので、子どもも大人も素直に楽しめるなと思った。
- ・一人一人、一回一回が全く同じになることがないので面白かった。
- ・これが楽譜？と思ったが、やってみると**確かに楽譜だ**と理解することができた。

《オープンキャンパス後の気づきと振り返り》

- ・楽譜が読めなくても練習をしなくても**楽しめ**、お話の場面に沿って楽器を鳴らすことでお話の情景が浮かびやすく、お話の世界に入り込める**楽しさ**があることに気づいた。
- ・音楽は**楽しさを共有**できるものだと改めて気づいた。
- ・まずは**自分が楽しんでやる**ことが大切。楽しくなさそうにすると聴き手にもそれが伝わってしまう。
- ・音楽は**子どもから大人まで参加**でき楽しく行えるものだ。もっと音楽に触れる時間があればいいと思った。
- ・幼児を対象にした時の姿が**楽しみ**。「回るシンフォニー」について分かりやすく伝える工夫が求められる。
- ・「回るシンフォニー」は大人も子どもも**楽しめる**と思った。**絶対的な楽譜**ではなく、「**だいたいこれくらいのところ**」というのが**良いところ**だと考える。

このオープンキャンパスにおけるプレ実践は、学生の「回るシンフォニー」と図形譜についての理解につながった。



図5 クロックオーケストラ
時計チャート



図6 回るシンフォニー
時計チャート



図7 「牧場の一日」
(回るシンフォニー譜列)

2.3 「回るシンフォニー」の実践概要

[対象者]

附属幼稚園の3,4,5歳児各2クラス計6クラス(園児数各20~27名)。

[使用物]・「回るシンフォニー」のパネル。テーマ「牧場の一日」(図7)

パワーポイントで作成されたものを模造紙に拡大コピーし、60cm×60cm四方のボードに貼ったパ

ネルを準備する。時計盤の真ん中に穴を開け、秒針に見立てた針を裏面から手で動かした。

・楽器

バードコール 2 個、ブームワッカー 8 本、ウッドブロック 1 セット、アニマルボイス 6 個、
フレームドラム 1 個、スレイベル 1 個、カエルギロ 2 個、サンダードラム 1 個、
レインメーカー 1 本、ラチェット 1 個、カスタネット 2 個、ウィンドパーチャイム 1 台

[方法]

所要時間は 1 クラス約 15 分間。

- ①使用楽器を並べ自由に鳴らしてもらう。
- ②「回るシンフォニー」のパネルを提示する。
- ③ルールを説明する。
- ④学生がモデル演奏をする。
- ⑤楽器を選んでもらう。
- ⑥演奏をする。
- ⑦楽器を替えてもう一度演奏をする。

2.4 「回るシンフォニー」の実践結果

学生の観察レポートでは、「15 分という短い時間だったが、子どもたちは笑顔で楽器を鳴らしていた」「5 歳児では楽器を鳴らす順番をジャンケンで決めたりする姿が見られた」「3 歳児でも時計だ!って声があがった」「3 歳児に、自分が選んだ楽器の箇所まで待っている姿があった」「4 歳児はお話の流れを理解して楽器をみんなで鳴らすのを楽しんでいるようだった」等、各クラスの発達過程を意識した感想が挙げられた。

また、園の教諭計 12 名にアンケート(図 8)を実施した。その結果を表 1 に表す。

「回るシンフォニー」の活動について

アンケート調査ご回答のお願い

このたびは、「回るシンフォニー」の活動について多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。今回の結果を今後の保育における表現活動の研究に役立てていきたいと思っております。つきましては、附属幼稚園の教員の皆様のご意見もいただきたく、以下のようなアンケートを作成してみました。ご多忙とは存じておりますが、何卒ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

滋賀短期大学幼児教育保育学科 柚木たまみ

1. ご担当クラス (○をつけてください)

a ぞう組 b らいおん組 c はんだ組 d りす組 e きりん組 f うさぎ組

園児数 () 名

2. 楽器について(複数回答可)

- a いろいろな楽器があってよかった b 珍しい楽器があってよかった
c 鳴らし方が簡単そうであった d 楽器の数と種類は少ない方がよかった
e 保育で使用する楽器を多く入れてほしいかった

3. 活動の流れについて(単一回答)

- a 時間設定は適切だった b 時間はもう少し短い方がよかった
c 時間はもう少し長い方がよかった

4. クラス全体の様子(複数回答可)

- a 楽器に関心を持っていた b パネルに関心を持っていた
c 楽器の鳴らし方に工夫があった d パネルに合わせてようとしていた
e 園児相互の様子を観察していた f 活動への参加に消極的だった
g 集中して活動に参加していた h 笑顔が多く見られた
i 表情が乏しかった

5. 「回るシンフォニー」について(複数回答可)

- a 面白い表現活動だ b すぐに取り入れられる活動だ
c 子どもたちの主体性が伸ばせる d 誰でも楽しめる活動だ
e あまり面白くない活動だ f もっと工夫が必要だ

6. その他、ご意見・ご助言ございましたら、ぜひご記入ください。

()

ご協力ありがとうございました。

図 8 実施アンケート内容

図形譜を用いた音楽表現活動

表1 附属幼稚園教諭に実施した「回るシンフォニー」の活動に関するアンケート調査結果

◎楽器について			
a <u>いろいろな楽器があつてよかつた</u>	12	b 珍しい楽器があつてよかつた	12
c <u>鳴らし方が簡単そうでよかつた</u>	7	d 楽器の数と種類は少ない方がよかつた	0
e 保育で使用する楽器を多く入れてほしかつた	0		
◎設定時間について			
a <u>時間設定は適切だつた</u>	8	b もう少し短い方がよかつた	0
c もう少し長い方がよかつた	4		
◎園児の様子			
a <u>楽器に関心を持っていた</u>	12	b パネルに関心を持っていた	3
c 楽器の鳴らし方に工夫があつた	0	d <u>パネルに合わせようとしていた</u>	6
e 園児相互の様子を観察していた	1	f 活動への参加に消極的だつた	0
g <u>集中して活動に参加していた</u>	6	h <u>笑顔が多く見られた</u>	9
i 表情が乏しかつた	0		
◎「回るシンフォニー」について			
a <u>面白い表現活動だ</u>	12	b すぐに取り入れられる活動だ	3
c 子どもたちの主体性が伸ばせる	2	d 誰でも楽しめる活動だ	3
e あまり面白くない活動だ	0	f もっと工夫が必要だ	0
【感想・自由記述】			
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>子どもたちも楽しんで良い機会となりました。</u> ・ 複数の楽器を一つの音楽として時計盤を使って演奏するという方法に、これなら子どもでも<u>わかりやすく参加しやすい</u>と思った。普段<u>出会う機会の少ない楽器との出会い</u>を子どもたちは喜んでいました。 ・ 珍しい楽器が多く興味や関心が高く楽しめた。 ・ 普段あまり触れることのできない<u>珍しい楽器を手に持ち、自分たちで鳴らす</u>ということが子どもたちにとってとても貴重な時間となりました。 ・ <u>一度見せてもらっただけなのに、思ったよりもパネルに合わせて子どもたちが演奏</u>していて驚きました。<u>いろいろな珍しい楽器に触れることができ</u>、子どもたちもとても楽しそうでした。私自身も勉強になりました。 ・ <u>思っていたよりも、子どもたちがボードを見ながら音を出して</u>いて、楽しんでいました。 ・ 子どもによっては自分から楽器に触れようとするまでに個人差があつたので、また機会があれば他の楽器にも触れさせたいと思いました。 ・ 「もっとやりたい！」という声があつた。継続的な取り組みであればあれぐらいの時間でよかつたと思います。 			

3. 考察

附属幼稚園でのアンケート結果をもとに実践について考察をする。

全体的に、この活動は園児にも教員にも受け容れてもらえた。

楽器についてはいろいろな楽器、珍しい楽器があり、それらを自分で自由に選び鳴らすことができたことが園児のやりたい気持ちを盛り上げたと考える。また、鳴らし方(操作方法)が簡易なことも園児の積極性への一助となったと言える。

設定時間については15分が適切であったという回答が多かったものの、年少児クラスからはもう少し長い方がよかったという回答があった。今回の実践では各クラスをまんべんなく巡らなければならず15分という余裕のない時間設定であったことは否めない。しかし、もっとやりたかった」という声があったということから、園児には受け容れられた楽しい活動だったと解釈できる。

園児の楽器への関心が高かった。dでは3歳児クラスの回答が多く意外であった。アナログの「時計盤」は教材でも使われ、身近な視覚的ツールであるために参加が容易であったのだろう。

「回るシンフォニー」の活動が、園児にとって面白い、有効な表現遊びであることが附属幼稚園の教員にも感じられたことは良い結果であった。

学生との何気ない会話の中に、本実践において「活動がつながったな」という言葉が聞かれた。絵本の活動と「回るシンフォニー」の活動で、双方の活動に共通して使われていた楽器について園児と学生がコミュニケーションをしていた姿があった。それぞれは単発完結の異なる活動でありながら、連続性のある活動となっていたことに気づいたことは、学生の成長だと思っている。もうひとつ、3つの活動全てがつながり、音楽活動でありながら視覚的要素に大きな成功要因があることを理解してくれたことである。音楽の視覚化・見える化を意識することが、幼児教育における音楽表現活動において非常に有効であることを、今後の現場実践で活かしてほしい。学生が音楽表現活動のレパートリーを増やし応用して実践する力を修得することが授業の大きな目的であるが、個々の活動を連続性、共通性を持って捉えることができたことは、大きな収穫であった。

4. まとめ

音楽経験を問わず楽しむことができるこの活動は、子どもにとって、そして保育者にとっても新しい。それでいて各々の体験が生かされながら、特別ではない身近にあるもので行うことができるという有用性と高い応用性がある。今後も音楽教材のひとつとして学生に紹介していくつもりである。今年度は作曲された既存の「楽譜」を使用した。できれば学生がクロックオーケストラの原理を理解し、オリジナルの図形譜を作曲することに挑戦してみたい。

謝辞

本研究の実践および執筆にあたり、滋賀短期大学附属幼稚園では活動にご理解をいただき多くの時間と場を与えていただきました。学生との実践を快く受け容れてくださり、温かなまなざしで応援してくださった附属幼稚園の小野清司園長をはじめ、アンケートにご協力くださった先生の皆様に心から御礼を申し上げます。

付記

本研究は令和元年度学長裁量経費(II型-1 地域に根ざした教育研究支援<研究推進経費>)の支援を受けたものである。あらためて謝意を表する。

註

- 1) 文教大学教育学部非常勤講師。
- 2) 近藤真子氏が2002年に考案した音楽づくりの活動。時計の文字盤に図形楽譜を書き込み、1分間で即興的に表現する活動。
- 3) 近藤真子氏考案「クロックオーケストラ」のアイデアをもとに、奈良教育大学・電通・NTNの産学連携で考案された音楽表現活動。
- 4) 柚木たまみ (2020)「絵本を用いた音楽表現活動」滋賀短期大学研究紀要 第45号 pp.231-240
- 5) 高御堂愛子 植田光子 木許隆監修編著 (2017)「保育者をめざす楽しい音楽表現」圭文社

文献

- 1) 近藤真子 (2018)「教員養成課程における実践的指導力の育成に向けて ―音楽づくりの実践：「クロックオーケストラ」―」教育学部紀要 文教大学教育学部 第52集 pp.203-212
- 2) 「回るシンフォニー <https://www.ntn.co.jp/japan/rotatingschool/index.html> NTT 回る学校」(2019)
- 3) 平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)(2017)チャイルド本社
- 4) 作/香山美子 絵/柿本幸造 (2004)「どうぞのいす」(株)ひさかたチャイルド
- 5) 無藤隆 吉永早苗 (2016)「子どもの音感受の世界―心の耳を育む音感受教育による保育内容「表現」の探求―」萌文書林
- 6) 田島信元 佐々木丈夫 板橋利枝 早川史郎 黒石純子 春日文 牛山剛 藤本朝巳 (2018)「歌と絵本が育む子どもの豊かな心―歌いかけ・読み聞かせ子育てのすすめ―」ミネルヴァ書房